

[1] 工事概要

- 1. 工 事 名 高山祭屋台防災施設(宝珠台屋台蔵) 修理工事 (二期工事)
- 2. 場 所 下三之町町 地内
- 3. 構 造 土蔵造平屋建
- 4. 規 模 1階 内 20.01 m² (外)
- 5. 工 事 範 囲

NO	工 事 部 分	面積,数量等
1	正面 土蔵外壁漆喰塗修理工事 (平、小口)	21.76m ²
2	土蔵大扉外平壁、小口漆喰塗修理工事	21.91m ²
3	内壁漆喰塗修理工事	20.00m ²
4	大扉受両側実柱の柱脚補強	1箇所
5	防火壁修理 小扉及び上壁	1面

[2] 一般事項

- 1. 総 則 この特記仕様書は、工事の作業基準を示すもので、記載なき部分、及び疑問を生じたる場合は、全て係員と協議の上施工する。
(係員とは、高山市文化財課担当者、及び工事監理者を言う)
図面、特記仕様書に記載されている事項以外は、国交省大臣官房営繕部監修の建築工事共通仕様書最新版による
- 2. 工 事 方 針 本建物の修理工事に当っては、本建物の原完成時の形態に準じて施工する事を原則とし、既存部分の寸法、材質、施工方法は、忠実に旧来の当建物に倣うものとする。
指定文化財の修理は、工法、材料等在来に倣う所が多く、在来部分の寸法、工法、材料継手、仕口等の工法の調査は、係員に全面協力する事。
- 3. 使 用 材 料 本工事に使用する材料は、全て係員の承認を得て使用する。特に木材については充分なる乾燥材を使用する。又、木材の程度 (等級) については、既建物の同位置に使われているものを参考に決定する。
- 4. 施 工 図 等 解体時に於ては、必要に応じ、修理部分を事前に実測し、実測図を作成し検討をする。
又、設計図と異なる施工を必要とする部分については、その部分の施工図を作成し、係員の承認を得て施工する。
又、解体時の写真、施工途中の工事写真は整理の上係員に提出する。
- 5. 安 全 対 策 工事施工にあたり、現場周辺も含め、人的物的被害を及ぼす事の無い様に仮設、養生も含め、充分なる対策を行う。
又、火災保険等を含む建設関係保険は必ず設定する。

[3] 仮設工事

- 1. 適 用 修理工事に於ては必要に応じて各種の仮設を行う。
なお、隣家、及び付近の家、住人に迷惑を掛けずに必要であれば話し合いの上施工する。

道路占有などの届け出について速やかに行うこと。
なお、シート、仮囲い等の色についてはなるべく目立たないものを使用する。
- 2. 仮 設 工 (仮 囲) シート貼 板貼 合板貼 鉄板貼 ガードフェンス
H= 2 m

(仮 小 屋) 丸太組シート貼 丸太トタン貼
(現場事務所) プレハブ製 建物内事務所
(下 小 屋) 丸太トタン貼 建物内
(外 部 足 場) 鋼製粹組 丸太組 単管組 脚立
(シート貼 有 無)

(内 部 足 場) 脚立 鋼製粹組 丸太抱足場 ローリング
(材 料 保 管) 屋外仮小屋 野外 屋内指定場所
(養 生) 当て板 シート掛 その他 ()
(設 備) 給排水管 水栓等移設 電気及び電話線の移動 盛替

仮設施工に当り、工事全体の安全を考え、危険防止、及び保健上、防火上必要なる安全対策を行うこと。

[4] 解体工事

- 1. 工 法 解体にあたり、既存、ほかの部分に影響を与えることのなき様、ていねいにとり扱うこと。
解体した材料のうち、修理工事に必要なるものは係員の指示により保管する。特に、再使用材については記号を付け、実測、写真撮影し、適当な養生をしたあと屋内に保管する。
再使用材以外のもののうち、旧来の工法が長く判り、別途保存が必要なものについては、係員の指示により屋内に保管する。
木材・トタン・土等の解体材は高山市の条例に従って処分する。

[5] 木 工 事

- 1. 材 料 取替材、新補材については原則として、内地材にて旧来と同種類、同等材とし、旧形、旧工法を踏習する事とし、使用箇所により心持材、心去材の区分をし使用する。
- 2. 寸 法 設計図書に記入の寸法は、仕上寸法とする。
又、記入寸法は同一部所 (柱、梁等) の実寸による事も多く、接続部によっては材の収縮等も考えて、既存寸法より少し大きく採寸し使用する。

令和 8 年度	注一該当する部分は○印、また、材種材厚等は角囲みとする。				
高山祭屋台防災施設 (宝珠台屋台蔵) 修理工事	特記仕様書 (1)	(縮尺)	一級建築士事務所 岐阜県知事登録 第6923号 協同組合 飛騨設計センター 高山市上三之町29番地 管理建築士 大野二郎	(担当)	宝珠台 1 仕様

No.	使用部分	寸法	材 種				等 級						備 考
			桧	杉	姫子松	その他	無節	極上小	上小	小節	1等	2等	
1	入 口 枠	120×60	○							○			既存合わせ加工
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8													
9													
10													
11													
12													
13													

〔6〕 屋 根 工 事

1. 真木有瓦葺葺き
- 材 料 J I S製品を使用する。
- [材 種] カー鉄板 耐磨カー鉄板 その他 ()
- [材 厚] 0.35mm 0.40mm 0.50mm
- 葺材寸法
- [平葺部分] 910×910 910×1820 その他 ()
- [瓦棒部分] L＝2,000以内 3,600以内
- 真木間隔は910間隔、または606間隔とする。
- 鈎子は、板1枚につき上下とも2枚以上とする。
- 防水紙は、アスファルトルーフィング22k g/品巻き製品を用い、重ね張りとし、真木部分は更に1枚で覆う。
- はぜ部分は、一般にはコハゼ掛けとし、特記ある場合はマキハゼ掛けとする。瓦棒軒端は前包みをなし、棟では面戸板にて目切り上に箱棟、又は泥障板を置いて包板で包む。但し、防水材については特記の場合もある。

令和 8 年度

注－該当する部分は○印、また、材種材厚等は角囲みとする。

高山祭屋台防災施設（宝珠台屋台蔵）修理工事

特記仕様書（2）

（縮尺）

一級建築士事務所 岐阜県知事登録 第6923号
協同組合 飛騨設計センター
高山市上三之町29番地 管理建築士 大野二郎

（担当）

宝珠台
2 仕様

2. くれ葺き
- 屋根小舞の上に横方向は四枚目踏み地、縦方向は六分の一葺足（約135）にて下より葺き上がる。大屋根の棟部分は更に押さえくれ5枚重ねに鉄板くれ2枚かさね、更に長くれ2枚を置き、置石とする。
- なお、下屋部分は、上部妻屋根下で更に5枚重ね、置き石とする。

[材 種] 栗へぎ材

[材 厚] 5～9mm

[材 巾] 120～180

[材 長] 720～800

3. 屋根断熱
- 野地板の上には、断熱材として下記のを重ね使用する。この場合、隙間が生じないように、丁寧に貼る。

[断 熱 材] グラスウール板 厚10mm 厚15mm 厚20mm

木毛セメント板 厚20mm 厚25mm 厚30mm

4. 日本瓦葺
- 材料はJ I S製品を使用する。（一等品）

[形 状] 五三板 六四板

[種 類] 引掛棧瓦葺 本瓦葺 その他 ()

役物の鬼瓦、棟各種瓦、降棟、隅瓦、軒先瓦、袖瓦等は旧来の形に倣うのを原則とする。但し、旧来の材料が構造的に弱い場合は、係員と協議の上、耐寒性の有る瓦材料にても可能とする。

平葺部分は、けらば軒から3枚通りを1枚毎に銅線（＃18）針にて下地に留め付け、鬼瓦、棟ついてはずれを生じないように、特に入念に施工する。又、慰斗部分、棟部分、腰部分は特記により裏込め漆喰塗込とする。

下地は、アスファルトルーフィング22k g/品巻き製品2枚重ね張りとする。

なお、瓦材は下部タテ通し、上部ヨコ通しとする。

[瓦 種 類] 陶器瓦 耐寒いぶし瓦 その他

〔7〕 板 金 工 事

- 1. 樋
- 軒樋、縦樋共、形状寸法については図示による。特記なき場合、係員の指示により既製寸法の品物にても可とする。

[材 料] カー鉄板 亜鉛引きトタン板 鋼板 耐磨カー板 銅板

[材 厚] 0.3 0.35 0.4 0.5 2.3

軒樋受金物は既製品を除き、F B-30～45mm×厚2.3mm、3.2mm、4.5mmのものを樋寸法に応じて加工する。又、縦樋受金物も径に応じてF Bを加工し、塗装は合成樹脂塗装とする。

アンコウは旧来寸法、又は指示寸法による。又、箱樋は200×200を標準とする。

2. 壁 張 り
- 指示ある箇所は着色波鉄板張りとする。

[材 料] 角波カー鉄板 厚0.3mm 厚0.25mm

耐磨カー鉄板 厚0.35mm 厚0.40mm

銅板 厚0.40mm 厚0.50mm

3. 塗装
- 塗り替え部分は、水洗い、汚れ落としをし、錆止め塗装の語、シリコンルーフ塗装2回塗とする。

〔8〕左官工事

- 1. 種類 当工事真壁造左官壁の種類は下記のとおりとする。
[種類]
土壁 黄（鼠）大津壁 漆喰壁 ジュラク壁 色モルタル壁
- 2. 土物壁共通
- ① 下 塗 泥土に藁すきを混入したものを小舞下地に塗り、貫と平坦に壁付する。これに用いられる材料は、普通川底の泥土や粘土、又荒木田とする。すきは打藁5cm位とする。
乾燥後、同一土にて裏返しをなし、凸凹直しのためむら直しを行う。
- ② 中 塗 粘土、及び砂を4対6の割合に揉すきを適量に混ぜた土で、貫面より9mm厚に平らに塗布する。又、貫伏と称し、寒冷沙を貫と土の間に塗り込む。又、細クシにてこした「ノロ」を生湯き時に撫で上げる。すきは麻すき、さらしすき。
- ③ 上 塗 仕上げを意味し、上塗りに用いる材料によって、大津壁、漆喰土物壁等の種類に分かれる。
- ④ 大津壁 海苔を用いず、石灰に粘土、及びすきを混ねりしたもので、粘土の色により各種の名称がある。
例 黄大津、茶大津、鼠大津
- 3. 漆喰壁 石灰、又は貝灰に海苔（角又類）及びすきを混合練したものを漆喰という。
下地組は大津壁、土物壁も同一であるが、木摺、及びすぐり芽材を小舞縄（細縄）にて組み、荒壁から塗り付ける。
漆喰塗調合については、旧来の調合による。
又、諸材料は角又4.7kgに対して、水、約115リットルを用いて充分煮沸溶解し、3厘目簾にて濾過し、溶液の熱い間にすきを混合し、この溶液をもって砂類及び灰類を鉢にて充分混和する。
壁色の仕上は、灰墨、群青、酸化黄、黄土、紅柄、など係員の指示による。

4. リシン吹付 既存材刷毛落し素地調整の外装成樹脂エマルジョン系薄付け仕上
[種類] アクリル系リシン
5. 下地ボード 下地ボードは、ラスボード、シージングボード+ラス、木摺+防水紙+ラス等とする。
- 〔9〕土間漆喰叩き工事（土入りセメント強化床）転圧を充分行う
1. 材料 下 層 - 細かい採石+三和土
上 層 骨材 - 三和土 60% 砂20% にかり
普通セメント20% 水 - 適量
顔料（全体の割合2%） 黄色130：+緑色22：茶色15 無し

2. 工 法
上 層 砂、セメントを空練り状態に混合し、乾燥した赤土を混ぜる。
色や堅さの状態を見ながら、水を加え、充分に混ぜあわせる。
色合いによっては、適当に顔料を加える。
練り上がった材料を均一に塗り水締めをしながら3層程度塗たたく、更に表面の状態を見ながら2回～3回水締めたたく。
下 層 既存漆喰床を削り底部分を平滑にし、採石と赤土及びセメントを加えた物を厚70程度式たこにて展圧する。
- 4 養生 養生は表面を少し湿らせた状態で、むしろを敷く。
状況に応じて、水を撒く。

- 〔10〕塗装工事
- 1 キシラモン塗 主に、床下部分など木材の腐朽防止部分に使用する。
- 2 キシラディコール塗 2色、又はそれ以上の色を混合にて使用する。
- 3 紅柄
① 材料・工法
[紅柄] 従来の衆造古風高尚付粉、又は紅柄粉、合ばいを使用。
[黒色] 松煙、又は黒色細粒粉使用。
上記の2種類、又はそれ以上のものを混合練り合わせ、水（又は酢酸）にて溶き、適当なる濃さで、木材に布で塗布し拭き取る。
- ② 仕 上 充分乾燥した後、えの油にて布付け拭きを行う。
全体の色合いによっては、油拭き前に再度紅柄塗りをして合わせる。

- 〔11〕石工事
- 1 基礎石、通路石修理
① 材料 御影石 固い石 ・石材長 2M以下
- ② 仕上 既存敷石の車道部分角を削り加工する
削り部分は縦×横は30mm×30mm程度

○ 〔11〕鍛冶工事

- 1 柱脚支持 屋台蔵大扉受材の木製160角の柱脚の腐朽により、金属製の柱脚を取りつけ支持補強をする。
[加工図] 設計図を元に柱脚切断部の実測を行い、鉄厚板、支持器具、取付ボルトを選定
[材料] ジャッキ スクリュージャッキ（耐力100トン）1台
ジャッキ スクリュージャッキ（耐力60トン）1台
[基礎接合] p1 12×500×200 基礎石にボルト接合
接合ボルト M16 ベース掘り込みボルト M12×4
[柱架接合] 柱脚型はPL 16×600×200により縦接合をする。
- 2 崩止金物 両大扉下框部分に扉開きの際、自然戻り防止の為取付。
[材料] 土間床まで落とし込み、土間床部分で止め金物設置。

令和 8 年度	注－該当する部分は○印、また、材種材厚等は角囲みとする。			
高山祭屋台防災施設（宝珠台屋台蔵）修理工事	特記仕様書（3）	（縮尺）	一級建築士事務所 岐阜県知事登録 第6923号 協同組合 飛騨設計センター 高山市上三之町29番地 管理建築士 大野二郎	（担当） 宝珠台 3 仕様